

釧路市教育委員会 令和元年第17回8定例会会議録

1 日時：令和元年8月29日（木）10時00分から12時20分まで

2 会場：釧路市教育委員会室

3 出席者

岡部義孝教育長

（教育委員）

山口隆委員、松尾千穂委員、種村俊仁委員、小出美貴子委員

（事務局）

高玉学校教育部長、川畑生涯学習部長、大山教育指導参事、
北澤学校教育部次長、江縁学校教育部次長、藤岡総務課長、
小野施設計画主幹、松本総括指導主事、外崎青少年育成センター所長、
森教育調整主幹、山口給食担当主幹、久保北陽高等学校事務長、
工藤生涯学習部次長、澤口生涯学習課長、永井美術館長、
戸田学芸主幹、古賀動物園長、牧野阿寒生涯学習課長、
伏見音別生涯学習課長

4 議事録署名人 山口委員、小出委員

5 傍聴人数 0人

6 提出案件

【公開案件】

議案第63号 令和2年度（2020年度）から使用する小学校用教科用図書の採択について

議案第64号 令和2年度（2020年度）に使用する中学校用教科用図書（道徳以外）の採
択について

報告事項

（1）第47回釧路湿原マラソンの開催結果について

（2）キリン誕生のお祝い会開催について

（3）学校の現状について

7 会議内容

【公開案件】

議案第63号 令和2年度（2020年度）から使用する小学校用教科用図書の採択について

議案第64号 令和2年度（2020年度）に使用する中学校用教科用図書（道徳以外）の採択について

（江縁学校教育部次長）

初めにこれまでの選定作業の経過について説明する。釧路市は釧路町と教科書採択地区を構成しており、本年6月7日に釧路町との教科用図書採択地区教育委員会協議会を開催し、今年度の教科書採択事務の内容や日程等について協議を行っている。その中で、道徳以外の中学校用教科書については、平成30年度の文部科学省の検定において新たに検定を経た教科書がなく、採択対象となる教科書については、平成27年度の教科書採択時に調査研究がなされていることや、学習指導要領の改訂に伴い使用期間が令和2年度の1年間のみであること及び平成28年度から今年度までの4年間に使用している実績において支障が無かったことから、教科書の調査研究を行わず、現在使用している教科書を継続して使用することを確認したところである。

また、小学校用の教科書については、釧路町と合同で教科用図書の調査研究を行うことを決め、6月14日に第1回目の教科用図書合同調査委員会を開催した。以降、約1ヶ月にわたり小学校用の教科書見本について調査研究を行い、7月29日に調査結果の答申をいただいたところである。この答申を基に、8月5日に審査を行い、釧路市教育委員会としての候補教科書を1種選定したところである。

この釧路市教育委員会の選定結果を、8月16日に開催した第2回目の採択地区協議会に確認を取り、本日の議案提出に至った。

次に、小学校用教科用図書の採択について説明する。

現在使用されている教科書から変更となる教科は国語、書写、音楽の3種となっており、他の教科については現在使用されている発行者の教科書を使用する。また、来年度から教科化される外国語については、東京書籍を選定、決定している。

次に、特別支援教育について説明する。

特別支援教育の教科書選定については、特別支援学級の実態や一人ひとりの児童の障がいの程度に適した教科書を使用することが望ましいという観点から、各学校において選定できるものである。

次に、中学校用教科用図書（道徳以外）について説明する。

先ほど選定の経過の中で説明したとおり、道徳以外の中学校用教科書については、平成30年度の文部科学省の検定において新たに検定を経た教科書がなかったことから、平成27年度の教科書採択時に使用した調査研究結果を今回についても使用し、平成28年度から今年度までの4年間に使用している実績において支障が無かったことから、教科書の調査研究

を行わず、現在使用している教科書を継続して使用することを確認したところである。

また、特別支援教育学級用教科用図書についても、小学校教科用図書と同様の取り扱いをするものである。

◎特に意見はなく、本議案は、原案のとおり承認された。

【公開案件】報告事項

(1) 第47回釧路湿原マラソンの開催結果について

(工藤スポーツ課次長)

7月28日(日)に第47回釧路湿原マラソン大会が、晴天の中開催された。今大会には3,464人の参加申込みがあり、昨年度より263人減の申込となった。また、当日の実参加者は昨年より225人減の3,188人となった。一方では、2016年には「全国ランニング大会100撰」に選ばれたこともあり、道外からの参加申込は増加傾向が続いている。

天候については、日中気温が上昇したことから、熱中症などにより救急搬送をされた選手が10名おり、うち2名は入院加療のうえ、8月5日までに退院したと聞いている。その他の8名については、大事に至らずその日のうちに帰宅できたと聞いている。

今年は、4月からプロランナーとしての活動を開始し、釧路において長期合宿中である川内選手が2年連続8回目の参加となり、東京オリンピックのマラソン競技代表者選考レースであるMGCの参加資格者である実業団、黒崎播磨の園田隼選手との競り合いなど、国内トップレベルの走りをもって大会を大いに盛り上げていただくなど、まさにオリンピックが翌年に控えることを感じさせる大会となった。

また、今年はひがし北海道クレインズの選手が3キロにゲストランナーとして参加いただき、ゴール後においては、待ち受けていた多くのファンがクレインズ選手と一緒に写真を撮影するなど市民皆さんとふれあう光景が見られた。

本事業の実施にあたり、早朝より1,000名を超える市民ボランティアの方々や市内の高校生、関係機関・団体に大会運営のスタッフ等として格別のご協力をいただいたことに、改めて感謝を申し上げます。今後とも釧路湿原マラソンが市民はもとより、全国各地から多くの方々に参加いただける魅力あるスポーツイベントとして発展するよう、さらに運営面などの充実に努めてまいりたいと考えている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

救急搬送された10名は、地元の方々ばかりだったのか。また、地元以外からの参加者は、

100撰にも選ばれたということで増加傾向にあるが、地元からの参加者が減少傾向にある中で、小学生や中学生の参加状況を比べてみると、学年によっては減っているところもある。一般参加者は高齢化あるいは人口減とともに目減りしていくのは、必然的な結果だと思っているが、小学生、中学生、高校生への参加の働きかけは、大会後どのように関係者の中では話し合われているか教えてほしい。

(工藤スポーツ課次長)

救急搬送された10名のうち入院した2名については、いずれも釧路出身の方である。後の8名については、その日のうちに帰ったという事で、地元かどうかというところまでは押さえていない。

参加人数の動向については、実行委員会の中でも議論している。参加者の減少の大きな原因としては、子どもたちの少子化が主な要因だろうと判断をしている。

(山口委員)

なぜ地元の方かと聞いたのは、もし遠くから来ていてトラブルが起きたときに、地元の対応というのは、広い意味ではホスピタリティということで、釧路に行って自分はこういう状況になったら、こんなに手厚くやってくれたというのは、釧路に対するイメージにも繋がっていくという気がした。これからも、もしそういう状況があったときには、きめ細かく、温かく対応することが必要だと思う。

(工藤スポーツ課次長)

若干、補足すると、正式に実行委員会の中で議論はなされるが、消防の方から毎年、救急車や救急隊員の要請を事前にして会場に配置しており、今回、気温が上昇して救急搬送される方も多かったのもので、来年度は少し人数を増やして対応できないかということを検討している。そのような対応については万全を期していきたい。

(松尾委員)

毎年、ボランティアとしてお手伝いしているが、30キロや10キロというのはマラソン愛好者が多く、それ程増減は気にしなくて良いと思う。30キロ走るというのは、簡単にやってみようかというものではなく、10キロに関しても、普段走っていない人は絶対無理だと思う。そうすると、3キロの部で普段あまり走ってなくても、やってみようかという気持ちになって参加できるような種目が一番、人を集めることができると思う。子どもの参加が減ってきているというところは、例えば、中学生なら部活動、小学生だったら少年団、同好会などの大会がぶつかっていたり、親子で参加することも減ってきているとしたら、そのような子どもたちの参加を促すようなPR等に力を入れると良いと思う。なかなか親子で走る競技は他にあまりないと思うので、学校を含めてPRしてもらいたい。走っているランナーを見ると、小学生や中学生でも、陸上部で参加しているところが多いので、速い子たちが来ているように思う。もう少し大会などとぶつからないようにすることも可能ではないかと思う。

(岡部教育長)

同じ日に、小学校中学年向けの「キッズタウン」というイベントがあり、日程調整できないかという問題意識をもって調整を計ったが、難しかった。そのあたりが特に減っている要因かと、受け止めているところである。一方では、川内優輝さんが言っていたが、自分でも容易に勝てるような大会ではなくなっている、マラソン大会のレベルとしては非常に高まっている、とアスリートに対しても、対象として選んでいただけるマラソンに逆に成長していると思う。今後も、さまざまな調整を続けながら参加者が増えるよう、意を用いたいと思う。

【公開案件】 報告事項

(2) キリン誕生のお祝い会開催について

(古賀動物園長)

新聞やテレビで報道されているとおり、平成25年に市民の皆様からご寄贈いただいたキリンのオス「スカイ」と、平成26年に羽村市動物公園より借り受けたメス「コハネ」の間に、本年7月2日、仔が誕生した。釧路市動物園では、31年ぶりの赤ちゃんキリンの誕生となった。キリンの誕生を市民とともに盛大に祝いたく、9月15日(日)に誕生を祝う会を開催する。祝う会では、来園者から応募していただいた愛称の命名式も執り行いたいと思う。

多くの皆様に釧路市動物園へお越し頂き、祝う会にご参加いただくとともに、今後もキリンの仔の成長を温かく見守っていただきたいと思う。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

前回、赤ちゃん誕生の時の報告で、生まれてからしばらく立つことができなくて、間が空いてしまったので、母乳を飲む習慣ができなかったと言っていたが、母乳は飲めるようになったのか。

(古賀動物園長)

コハネが一生懸命飲まそうとしたが、赤ちゃん自体、母親から飲めるとわかっていないらしく、最初はお乳のないところ、足元を舐めていたが、やはり見つけられず、現在も人口哺乳を続けている。人口哺乳以外の時は、親子で一緒に過ごしている。

(山口委員)

母親のおっぱいの張りによる乳腺炎などの問題については、どうなっているのか。

(古賀動物園長)

おっぱいの張りが減ったせいかな、通常だと発情しないのだが発情するようになったので、萎縮してきているのだと思う。

【公開案件】 報告事項

(3) 学校の現状について

(大山教育指導参事)

初めに「学校・家庭・地域と共に考える教育懇談会」について報告する。今年度は10月から開始する。内容は最近の学校教育や社会教育の様子を知っていただき、その上で保護者や地域の皆さんと「学校と地域のかかわり」について意見交換をするものである。校長先生方には、会場校ばかりではなく、ブロック内の保護者や地域住民、CS協議会委員、町内会長の皆さんに参加いただけるよう、声をかけてもらうことと、各学校の地域との関わりについて説明を求められた場合の対応についての2点をお願いした。

次に、道教委の鈴木指導監の学校訪問の件について報告する。ご承知のとおり昨年度まで釧路教育局の局長をやっていた鈴木局長は、本庁の義務教育担当の指導監という仕事に就いている。全道を統括する仕事で、本庁でも初めてのポストであり仕事内容を模索している最中だそうである。その仕事の一貫として、8月22日(木)に鳥取小学校の経営指導訪問に合わせて、午前中に十勝教育局、根室教育局の義務教育指導監と一緒に鳥取小学校を訪問している。午後から3局の義務教育指導監と経営訪問の在り方について協議したそうである。鳥取小の一本嶋校長先生には快く引き受けていただき、大変良い経営訪問になったのではないかと考えている。

また、9月10日(火)に市内の中学校で学力向上の取組が進んでいる学校である景雲中学校も訪問したいということで、景雲中学校の佐藤校長先生にも快く引き受けていただき、学力向上について中学校の課題等含めて意見交換会を行うことになっている。

仕事内容については模索中という事だが、市教委としては必要に応じて、学力に課題のある中学校への指導・助言を含めて今後ともお願いしたいと考えている。

次に、道教委の方から今年度わいせつ事故が道内で多く発生しているという話があり、釧路市内も例外ではないので、校長先生方にわいせつ事故防止についてのお願いをしている。

最後に、札幌で熊が校区に出て猟銃で撃たれるというニュースがあったが、釧路も熊が出ているので、熊の出没についての学校の対応について、改めて各学校をお願いをしている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

9月10日に鈴木指導監が景雲中学校に来るとするのは、鳥取小学校に来たときと同じ内容で集まるということか。

(大山教育指導参事)

鳥取小学校は研修会で、景雲中学校は鈴木指導官と秦義務教育指導官と私の三人の対応である。